

# 小杉丸山遺跡の環境整備

—史跡等活用特別事業の報告書—

1996年3月

富山県教育委員会

## 序

小杉丸山遺跡は射水丘陵に所在する飛鳥時代後期の瓦や須恵器の製作遺跡であり、窯跡や工人の工房跡と住居跡などが一体となって保存されており、古代の窯業生産の全貌を示す全国的にも貴重な遺跡として、平成2年3月に史跡として国の指定を受けました。

この遺跡は昭和56年から小杉流通業務団地の造成に先立ち実施された発掘調査によって発見されたものであり、遺跡の重要性が広く一般に認識されるに至り、関係機関等の英断のもとに昭和59年には遺跡に盛土がなされ保存されることになりました。さらに文化庁の理解を得て、わが国の歴史を正しく理解するための学術上価値の高い遺跡として、文化財保護法に基づく史跡指定を受けた後、県ではさっそく平成2年度に学識経験者等から成る整備計画策定委員会を組織し、公開と活用を図るための基本計画の策定に着手いたしました。

平成5年度には文化庁の史跡等活用特別事業の採択を受け、3箇年計画で総事業費約3億7千万円の環境整備事業が着手されました。事業の内容は、実際に火入れのできる古代の登窯の復元、地形模型の屋外展示、古代の焼物を展示テーマとするガイダンス施設の建設などで、史跡指定地全域の約3万3千㎡が史跡公園として整備されました。

今後は郷土学習の場として、そして古代人の英知を偲べる憩いの場として多くの人々に活用されることを念願しております。

終わりに、本事業を実施するにあたり、ご指導やご協力をいただいた文化庁記念物課をはじめ、田中 琢、水野正好、湊 晨、西井龍儀、埴生雅章の委員各位、富山県高岡土木事務所、土木部営繕課、小杉町及び大門町、また、工事中格別のご配慮をいただいた小杉流通業務団地の各事業所の皆様に心から感謝申し上げます。

平成8年3月

富山県教育委員会  
教育長 吉枝信朗

## 例 言

1. 本書は、平成5～7年度の3箇年にわたり国補事業として実施した国指定史跡小杉丸山遺跡環境整備事業の報告書である。
2. 事業の実施にあたり、国指定史跡小杉丸山遺跡環境整備検討委員会（4名）を組織し、指導と助言を得た。工事の発注等に当たっては、富山県土木部営繕課及び高岡土木事務所に全面的な協力を得た。

〔国指定史跡小杉丸山遺跡環境整備検討委員会委員〕

水野正好（奈良大学教授）

湊 晨（富山県文化財保護審議会委員）

西井龍儀（富山県考古学会幹事）

埴生雅章（富山県土木部都市計画課主幹）

3. 本書に掲載した図版の縮尺は、各図面に明記した。

## 目 次

### 序 文

### 例言・目次

I 史跡の概要	1
II 環境整備の経緯	4
III 環境整備の基本方針	4
IV 事業費	5
V 整備内容	6
図版 第1図 計画平面図	9
第2図 造成工事図	10
第3図 施設配置図	11
第4図 植栽工図	15
第5図 排水施設図	19
第6図 給水施設図	20
第7図 電気設備図	21
第8図 四阿設備図	22
第9図 四阿設備図	23
第10図 水路工図	24
第11図 循環設備工図	25
第12図 野外模型上屋工図	26
第13図 屋外模型展示工図	27
第14図 登窯上屋工図	28
第15図 登窯復元工図	29
第16図 ガイダンス施設平面図	30
第17図 ガイダンス施設屋内平面図	31
第18図 ガイダンス施設立面図	33
第19図 ガイダンス施設外構図	37
写真図版	41～46

# I 史跡の概要

## 1 沿革

小杉丸山遺跡は富山県のほぼ中央部に横たわる小高い射水丘陵上に所在し、主に飛鳥時代後期の瓦陶兼業窯<sup>がとうけんぎようがま</sup>と工人集落の遺構を残している。

遺跡の発見は、昭和56年に小杉流通業務団地の造成に先立ち実施された試掘調査で確認され、昭和57年から60年にかけて、富山県教育委員会により順次、発掘調査が進められた。調査の過程で、遺跡の重要性が関係者の間で認識されるようになり、昭和59年には保存のための盛土がなされ、開発区域から除外されるに至った。

遺跡は射水平野に接した北西方向に細長くのびた小丘陵地を中心とし、標高は19mから36mをはかる。小丘陵地の西側斜面は勾配がゆるく、東側は急斜面となっている。西側の谷には農業用溜池の洪浦池があり、雑木林となっている。

発掘調査により、次のような遺跡の内容と特色が把握されている。

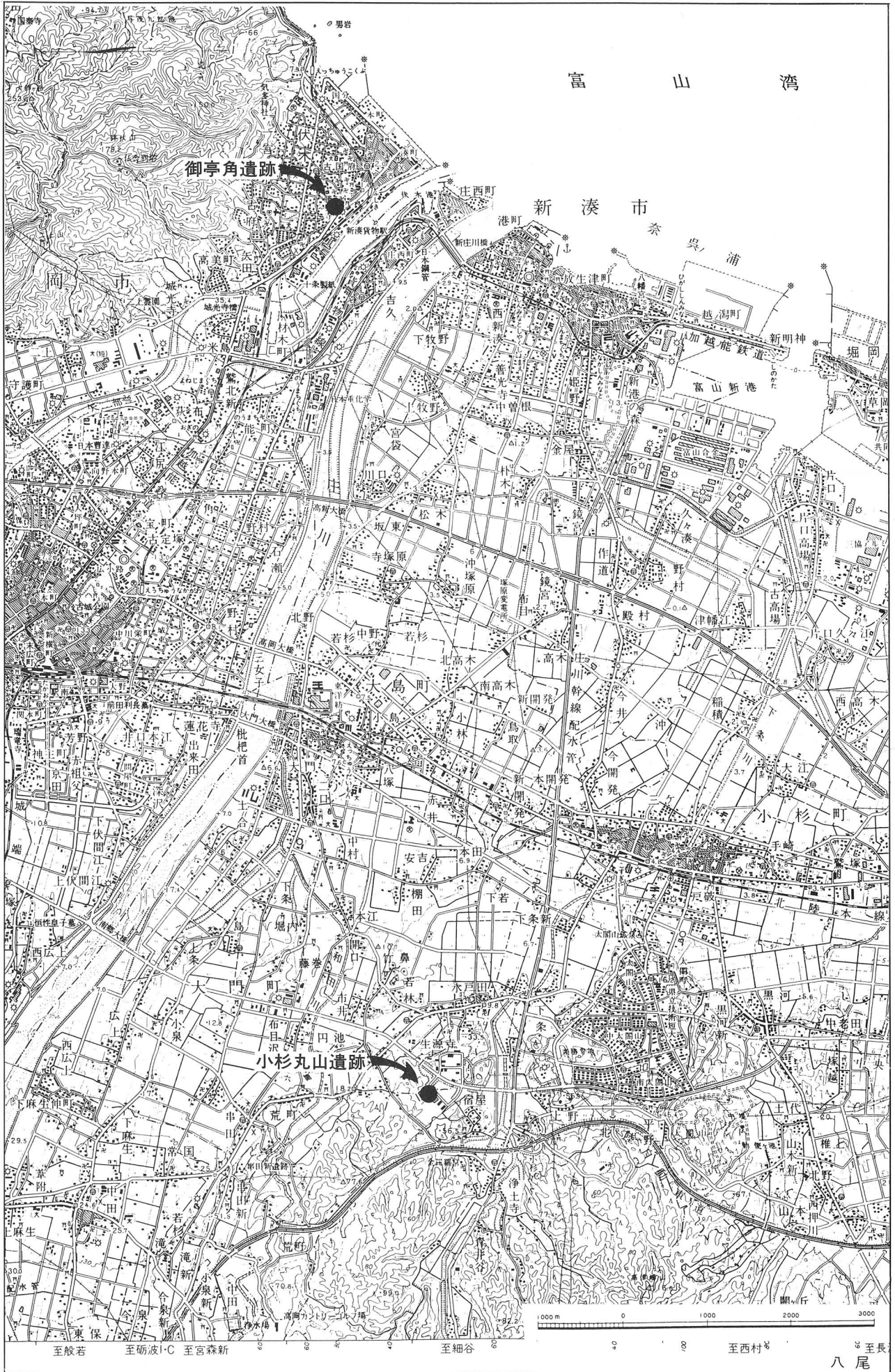
- (1) 飛鳥時代後期から白鳳時代前期にかけての瓦陶兼業窯跡、須恵器窯跡が検出されており、ここで生産された瓦の供給先は北西約11km隔てた高岡市御亭角遺跡<sup>おちんかど</sup>と判明した。古代日本の瓦生産は畿内<sup>きい</sup>にのみ集中しており、7世紀もしくはそれ以前の瓦陶兼業窯跡は北陸では初めての発見であり、瓦・須恵器生産に伴う大規模な工人集落は全国的にも少なく、集落形態が把握できる好例である。
- (2) 奈良時代から平安時代にかけての製鉄炉跡は形態がわかる好例である。
- (3) 弥生時代から古墳時代にかけての多数の粘土採掘穴は、射水丘陵一帯における該期の原料採土地を示すもので、遺構としては全国的にみても希少価値がある。
- (4) 丘陵上の古墳時代の群集墳は、射水丘陵においては数少ない好例である。

以上の成果を受けて、富山県教育委員会では遺跡の価値が高いと判断し、国の史跡指定を受けられるよう、文化庁に働きかけた。

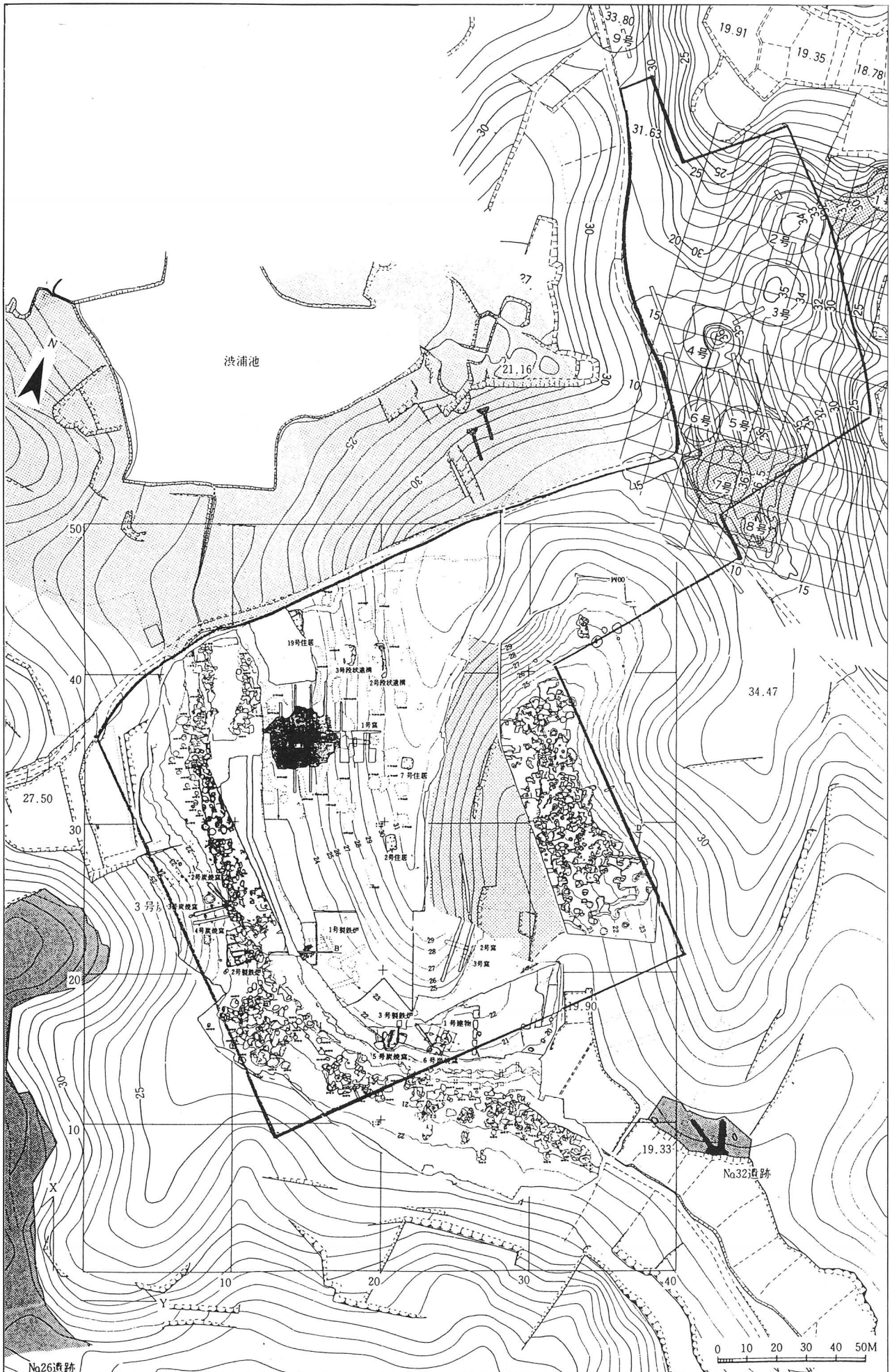
## 2 史跡指定

小杉丸山遺跡は、わが国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、遺跡の規模、遺構、出土遺物等において学術上価値のある遺跡として、文化財保護法に基づき史跡として次のとおり国指定を受けた。

- (1) 名称 小杉丸山遺跡
- (2) 所在地 富山県射水郡小杉町青井谷、大門町水戸田
- (3) 面積 32,432㎡（実測）
- (4) 指定年月日 平成2年3月8日（文部省告示第14号）
- (5) 指定理由
  - ア、基準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準の史跡1（住居跡、古墳）、6（窯跡）による。
  - イ、説明 小杉丸山遺跡は、射水丘陵の南西部に位置する飛鳥時代後期の瓦・須恵器製作遺跡である。窯・工房・粘土採掘坑・工人の集落などの窯業生産の全貌を示す好例で、出土した軒丸瓦は、飛鳥地方の坂田寺の系統を引くものである。畿内政権及び仏教の影響下で成立した各地方での瓦葺建物造営のはじまりと、その歴史的背景を北陸地方で具体的に示す貴重な遺跡である。併せて、丘陵北東部の尾根上に所在する円墳6基を史跡に指定して、その保存を図ろうとするものである。



史跡の位置



遺構分布図

## Ⅱ 環境整備の経緯

平成2年3月8日付けで富山県で15件目の国指定史跡となった小杉丸山遺跡を広く一般に公開し、活用を図るために、県ではさっそく、平成2年6月に学識経験者等から成る「小杉丸山遺跡環境整備計画策定委員会」（5名）を発足させた。平成2年度は3回の委員会を開催し、「小杉丸山遺跡環境整備基本計画」を策定した。

平成3年度はこの基本計画に従い、事務局と関係者により、関係機関との調整を行った。

平成4年度は基本計画を踏まえた全体実施設計に取り組んだ。委員会からは、火入れのできる登窯の復元、景観の維持、ガイダンス施設の建設などを盛り組むよう指導があり、平成4年10月にこの全体実施設計が完成した。

なお、小杉丸山遺跡環境整備計画策定委員会は田中 琢（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）、水野正好（奈良大学教授）、湊 晨（富山県文化財保護審議会委員）、西井龍儀（富山県考古学会幹事）、埴生雅章（富山県土木部都市計画課係長）で構成した。

平成5年度には文化庁の補助事業（史跡等活用特別事業）として採択を受け、3年計画の約370百万円の環境整備事業がスタートした。事業の実施にあたり、専門の見地から指導と助言を得るために「国指定史跡小杉丸山遺跡環境整備検討委員会」（4名）を新たに設置した。委員は水野正好、湊 晨、西井龍儀、埴生雅章で構成した。事業費は101,360,561円で工事の種類としては造成工事、園路広場工事、四阿設置工事、植栽工事等であり、設計監理は委託とした。

平成6年度は事業費114,096,473円で、工事の種類としては広場排水工事、修景施設工事、遺構施設工事、遺構全体模型設置工事などを行った。平成5・6の2箇年は野外施設の修景整備を行い、登窯の復元、全体模型の設置、園路整備、遺構表示、植生復元などがなされた。

平成7年度はガイダンス施設の建設が事業費150,631,809円で行われた。遺跡の概要を案内する施設として建設されたもので、瓦の製作遺跡であることから、本瓦葺きで周囲の景観になじむよう木造建築が採択された。建設位置は本史跡へのアプローチを考慮して、主要地方道高岡・小杉線から最も近い場所となった。

## Ⅲ 環境整備の基本方針

小杉丸山遺跡は、射水丘陵に位置する飛鳥時代後期の瓦・須恵器製作遺跡で、窯業生産の全貌を示す好例として国史跡となったことから、この環境整備の実施にあたっては、「小杉丸山遺跡環境整備計画策定委員会」における十分な議論を経て、次のような基本方針が打ち出された。

- (1) 史跡内に資料館を建設し、出土遺物等の展示を行う。
- (2) 展示シナリオの柱は古代の焼物とする。
- (3) 当時の登窯、製鉄炉、住居等を復元し、登窯については火入れを行い、瓦や焼物を製作する。
- (4) 近接する陶房匠の里等との有機的関連をはかる。

また、国庫補助事業として採択を受けてからは、「国指定史跡小杉丸山遺跡環境整備検討委員会」での指導を受け次のような整備の方針が提言された。

- (1) 歴史的建造物等の復元については、登窯を復元し、火入れを行う。また、植生復元や旧景観の保持に努める。
- (2) 遺構全体模型の設置については、史跡中央部の丘陵頂部に、射水丘陵の地形復元を行った模型を据え付け、該期の遺跡の分布状況を示す。なお、これは、当初、遺構露出保護展示施設の設置として、工人の住居跡の露出展示が予定されていたが、史跡をより理解しやすくするためなどの理由から変更となった。
- (3) ガイダンス施設の建設については、古代の焼物を展示テーマとする景観に調和したものを建設する。

## IV 事業費

工事等の名称	工事等の内容	平成5年度	平成6年度	平成7年度	合計
造成工事	排水施設、電気施設、遺構施設等	48,579,950円			
園路広場工事	園路、小舗石縁石、土居木階段等	25,577,990円			
四阿設置工事	木製四阿等	8,549,000円			
植栽その1工事	法面緑化等	6,231,500円			
植栽その2工事	植栽復元等	7,158,500円			
四阿外設置工事	木製四阿、登窯復元等		39,449,000円		
広場排水工事	給排水施設、電気施設、園路等		31,374,830円		
植栽その1工事	植栽復元等		11,463,900円		
植栽その2工事	植栽復元等		8,178,200円		
案内説明板設置工事	案内説明板等		14,523,000円		
ガイダンス施設新築工事	施設新築			97,850,000円	
ガイダンス施設電気設備工事	電気設備			6,540,500円	
ガイダンス施設給排水工事	給排水衛生設備			5,356,000円	
ガイダンス施設給水装置工事	給水装置			1,119,920円	
ガイダンス施設浄化槽工事	浄化槽設備			6,180,000円	
ガイダンス施設外構工事	外構整備			21,197,400円	
ガイダンス施設植栽工事	外構植栽			2,317,500円	
地質調査委託	ガイダンス施設の地質調査		3,038,500円		
設計監理委託	実施設計及び工事監理	4,300,250円	5,047,000円	9,064,000円	
事務費等	整備委員会開催等	963,371円	1,022,043円	1,006,489円	
計		101,360,561円	114,096,473円	150,631,809円	366,088,843円
国庫補助額		50,674,000円	57,044,000円	74,900,000円	182,618,000円
県費		50,686,561円	57,052,473円	75,731,809円	183,470,843円
計		101,360,561円	114,096,473円	150,631,809円	366,088,843円



## V 整備内容

### (1) 歴史的建造物の復元

歴史的建造物の復元としては、登窯復元と遺構表示を行った。また各復元建造物間は、見学者が回遊したり効率よく学習できるよう園路を設けた。以下に各復元物と園路の整備内容を述べる。

#### 〔登 窯〕

登窯は、遺構の発掘調査に基づき、飛鳥時代後半から白鳳時代前期（AC.7世紀中頃から後半）にかけて、須恵器・瓦を同一の窯で焼いた北陸最古の瓦陶兼業窯の復元を行った。

遺構である窯の全長は、約7.3m、幅は1.5mで細長く煙出し部で狭くなる半地下式の構造で、床は、無階無段方式であったのに対し、復元窯は、外形の大きさは昔の窯のとおりとし、窯の内部は、現代の窯の形状とし、実際に焼き物がうまく焼けるように工夫を行った。また窯の外形がよくわかるように窯全体を地上部に出した。

窯の設置位置は、復元窯に実際に火入れを行うので、遺構を守るため実際の位置より南側にずらし設置した。

#### 〔遺構表示〕

史跡指定地内の丘陵部西側斜面と東側斜面の標高25～30mの位置には、竪穴住居跡が24棟、段状遺構が5箇所、製鉄関連遺構が3箇所、炭焼き窯跡が7箇所発見された。このうち、住居跡の代表的なものとして尾根部の第2号住居跡の遺構表示をおこない、製鉄関連遺跡・炭焼き窯跡の代表的なものとして丘陵部南西部の第1号製鉄炉跡、炭焼き窯跡2箇所、また丘陵南東部の第2、第3号窯跡の遺構表示を行った。

表示方法としては、経年変化が少なく、管理が必要ない自然素材の花崗岩の小舗石を用い、各遺構の上部に盛土を行い表示した。小舗石の設置に関しては、雨水が貯まりにくくするためと、平面的な表示に若干でも立体的に見せるため、遺構表示中央部を周辺より高く山型にした。

#### 〔園 路〕

園路は、各遺構復元物を回遊できると共に、史跡指定地の地形状況が実際に歩いて把握できるように設置した。縦断勾配も主な園路においては、身体障害者利用に対応できるものとし、全ての施設、遺構復元物等にアプローチが可能なルートに設置した。

舗装素材は、より自然の状態に仕上がるものを使用した。路盤を碎石で締固めて、表層を加熱したアスファルトを泡状化し、真砂土と混合したもので仕上げた。

### (2) 遺構全体模型の設置

史跡指定地を含む射水丘陵一帯は、古代の鉄生産・須恵器生産を行った手工業生産地として重要な役割を果たしていた。しかしながら、現在、史跡指定地周辺は、小杉流通業務団地となり、昔の風景を想像しにくい状況にある。そこで今回整備において、目に映る現在と過去とが対比でき、ビジュアルに学習できる遺構全体の復元模型の設置を行うこととした。

模型は、縮尺1/200とし、史跡指定地を含む周辺約400m角の範囲を立体的に表現した、大きさ2.1m×2.1mものである。時代は、この遺跡が北陸最古の瓦・須恵器生産を行っていた7世紀中頃に設定し、地形の模型の上に竪穴住居、工房、瓦陶兼業窯の復元模型を配置をした。また、遺跡指定地内に存在する古墳群については、6世紀後半につくられたと推定されており時代背景が異なることから場所と大きさの明記のみとした。

模型の素材としては、この場が焼き物の産地であったということや季節間による色、材質変化のない耐久性のあるものとして有田焼の陶磁器質を使用した。

模型の設置位置については、尾根部中央付近の史跡指定地の見渡しのきく場所に設置し、現代と過去が対比できるようにした。

### (3) ガイダンス施設

本施設は、史跡が展望できる敷地の北側に位置し、主要地方道高岡・小杉線の交差点を通過する際に望むことができ、アクセスも良い。周囲の環境を考慮し、史跡公園として違和感のないよう配慮した。

建物は木造一階建、建築面積324㎡、延床面積263㎡である。外部仕上げとしては、屋根は本瓦葺、外壁の主要部は、ピーラ材で、和風のデザインとなっている。内部仕上げとして、天井は杉縁甲板、内壁はペンキ下地用クロス張、床はフローリング張りで落ち着いた展示空間とした。屋根の本瓦葺きは、この遺跡から飛鳥時代の瓦が出土したことに由来しており、軒丸には出土品の文様が復元されている。また、φ360mmの丸柱や330mm角の梁材などを前面に表現し、軸組の美しさや木の暖かみを感じとれるようになっている。

地震対策としては、重要度指数1.10を用い、耐震設計を行っており、来館者への安全配慮や展示品の安全性向上の保全対策を重視した。

施設への導入部分は、出会いの広場としてインターロッキング舗装とし、施設回りは、陶板タイル張により瓦をイメージした意匠となっている。また、隣地境界には生け垣を施し、史跡として独立した空間を創出した。

本施設は、訪れた人々に史跡をよく理解していただき、また憩いの場として利用してもらえるよう意図したものであり、内部は、遺跡からの出土遺物や関連資料の展示を行う陳列ブロックと、史跡を望みながら休息できる展望ブロックで構成されている。

また、高齢者等の弱者にも配慮し、エントランスや展示室には段差をなくし、スロープや手すりを配し、車椅子用トイレも設けた。

### (4) その他

#### 〔サイン〕

本史跡の銘板をガイダンス施設北東部のエントランス横に1箇所設置した。全体案内板は、ガイダンス施設入口部付近とガイダンス施設から屋外展示施設に向う園路沿いの2箇所に設置した。説明板は、歴史的建造物の復元物および古墳跡等に設置した。

サイン類の材質は、全て花崗岩の土台にステンレスの加工品の本体という共通素材を用い、デザインの統一化を計った。

#### 〔車止〕

車止めは、ガイダンス施設北東部エントランスの歩道部と史跡指定地南東部の園路入口部に設置した。材質は、花崗岩とし、車止の上部には小杉丸山遺跡で出土した軒丸瓦の模様をデザインとして取り入れた。

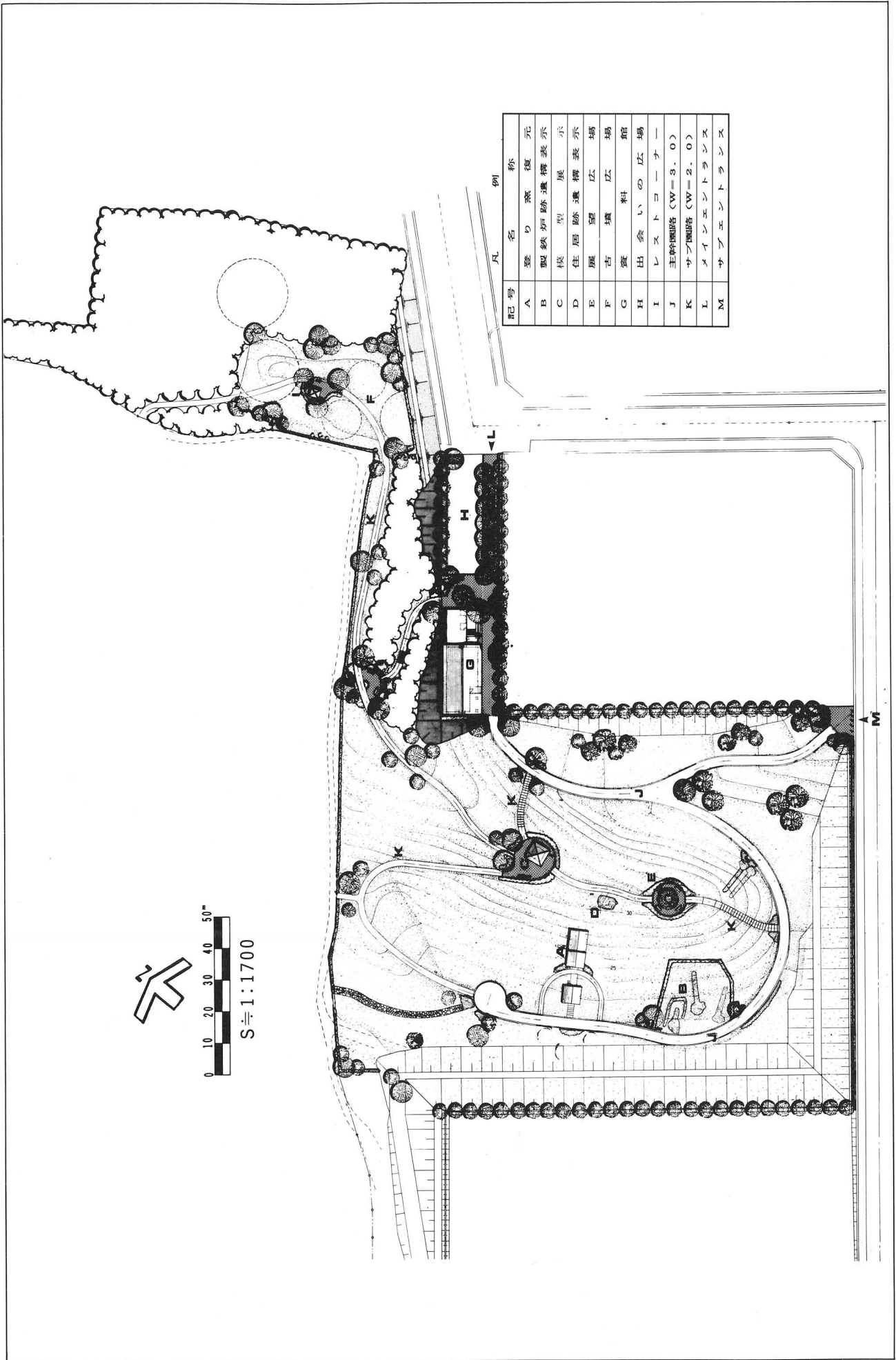
#### 〔植栽工事〕

植栽は、境界周辺に流通業務団地とのバッファとして常緑樹であるシラカシ、モチノキ、アラカシを主とした列植植栽を行った。

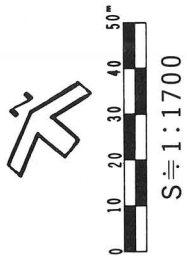
丘陵部については、史跡全体の眺望の確保のため高木植栽は、あまり行わず、各施設まわりにポイント的に在来種の花木を中心に植栽した。

古墳群付近は、後背する現況林に馴染む樹種を主とした植栽を行った。

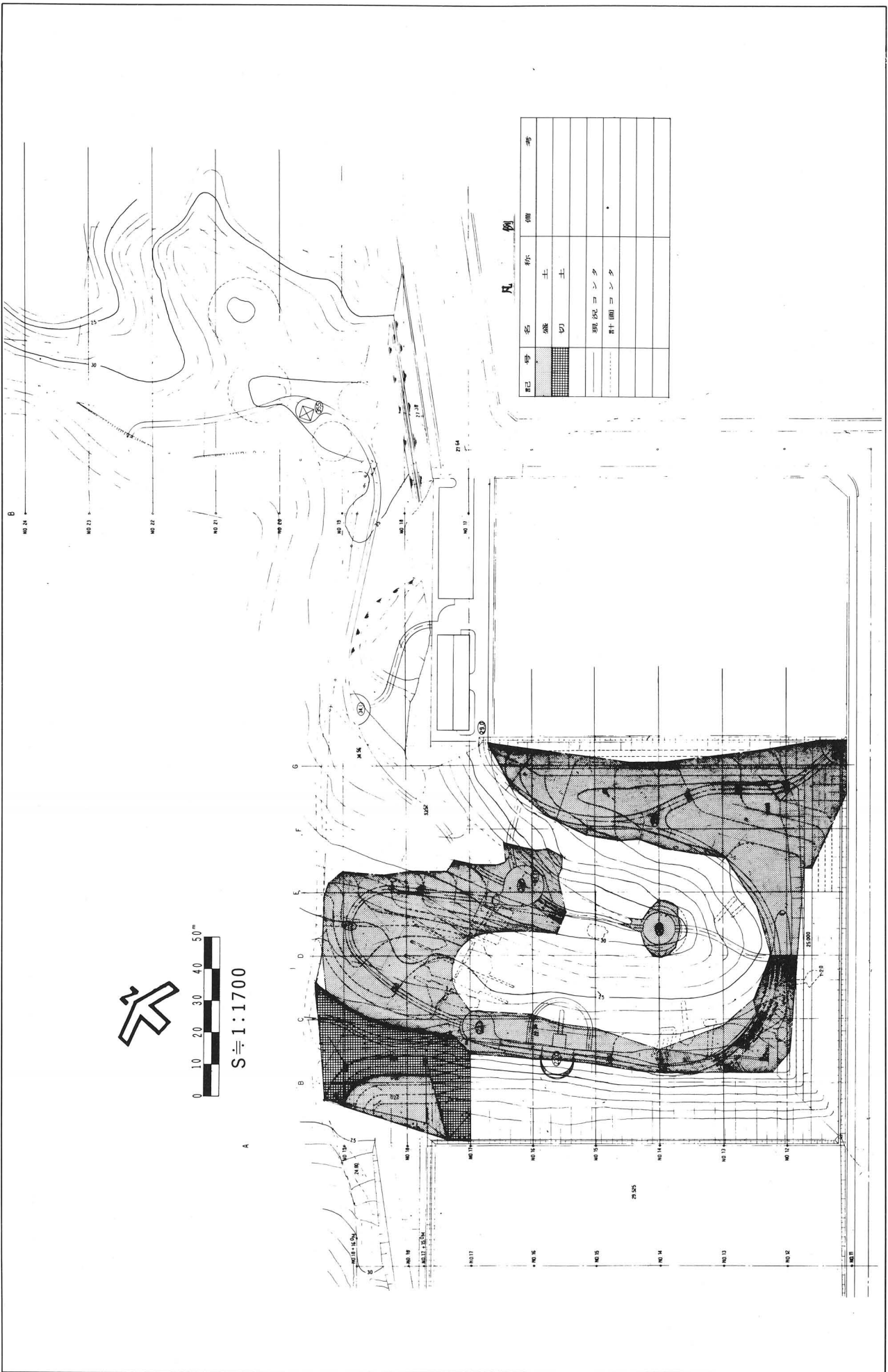
# 圖 版



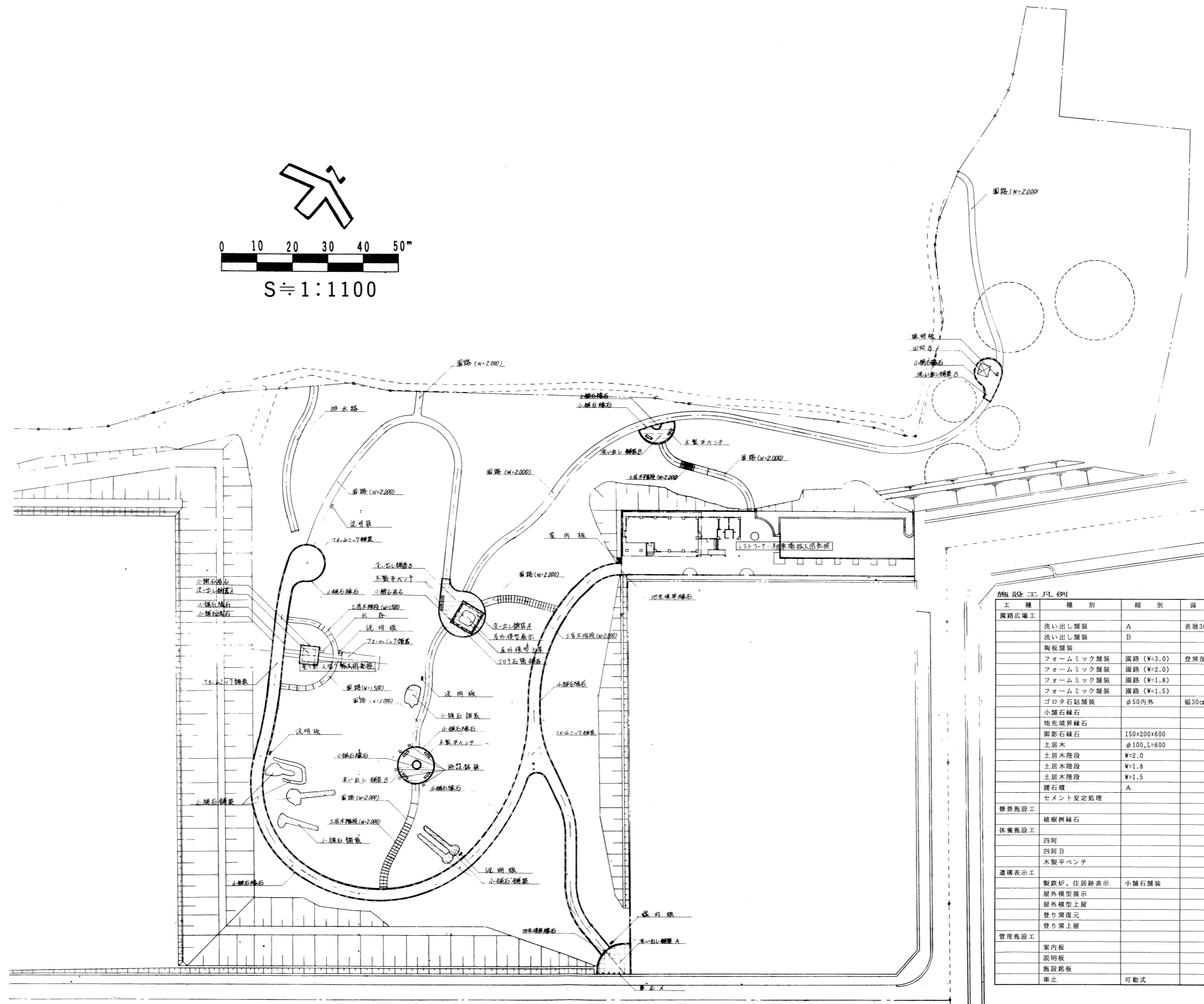
記号	名称	凡例
A	登り窯復元	
B	製鉄炉跡遺構表示	
C	模写展示	
D	住居跡遺構表示	
E	展望広場	
F	古墳広場	
G	資料館	
H	出合いの広場	
I	レストコーナー	
J	主幹園路 (W=3.0)	
K	サブ園路 (W=2.0)	
L	メインエントランス	
M	サブエントランス	



第1図 計画平面図



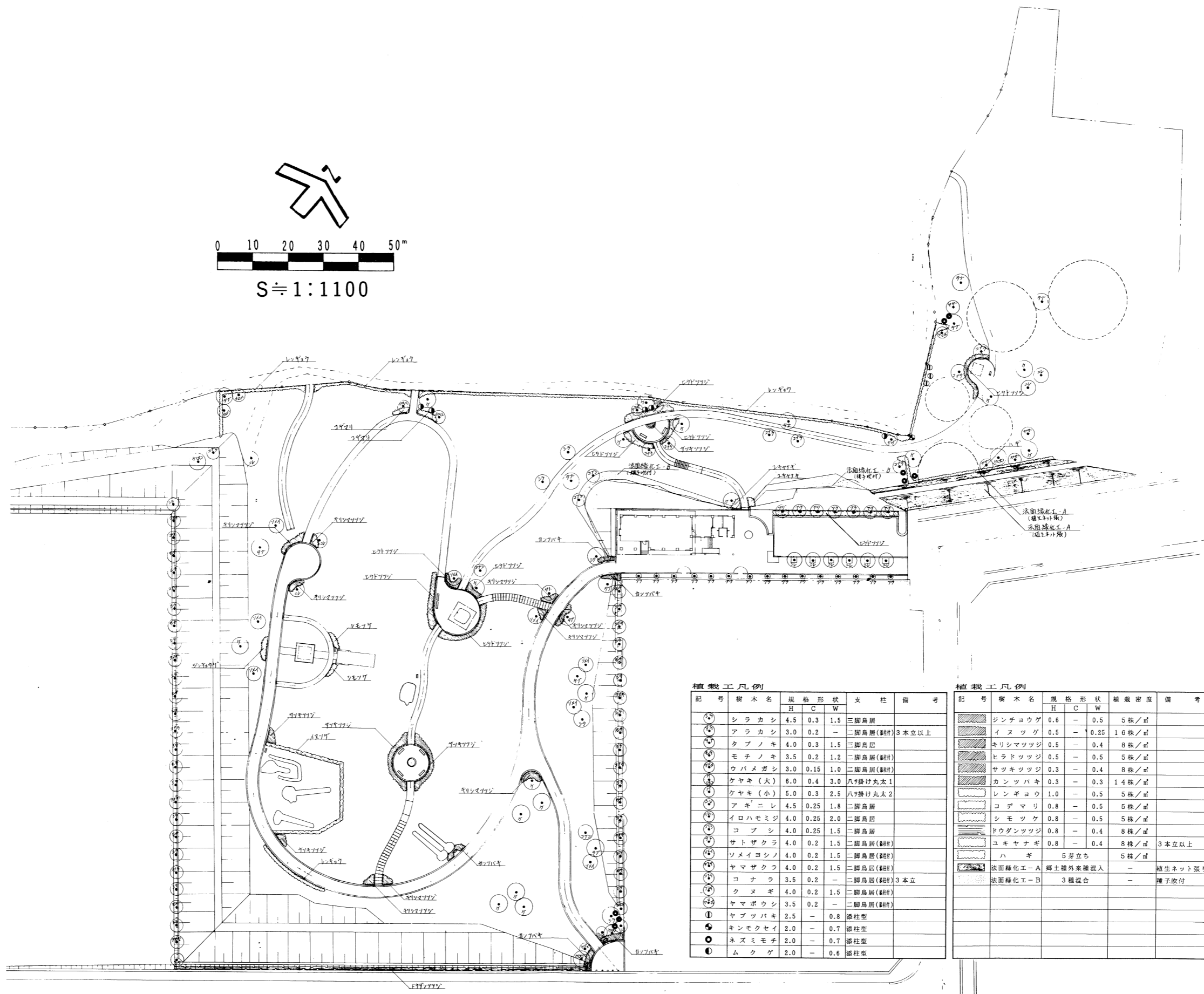
第2図 造成工事図



施設工凡例				
工種	種別	細別	備考	
園路広場工	洗い出し舗装	A	表層30mmのみ	
	洗い出し舗装	B		
	陶板舗装			
	フォームミック舗装	園路(W=3.0)	登壇部含む	
	フォームミック舗装	園路(W=2.0)		
	フォームミック舗装	園路(W=1.8)		
	フォームミック舗装	園路(W=1.5)		
	ゴロタ石貼舗装	φ50内外	幅30cm	
	小舗石舗装			
	地先境界線石			
修景施設工	御影石縁石	150×200×600		
	土居木	φ100, L=600		
	土居木階段	W=2.0		
	土居木階段	W=1.8		
	土居木階段	W=1.5		
	緩石積	A		
	セメント安定処理			
	植樹樹縁石			
	休憩施設工	四阿		
		四阿B		
木製平ベンチ				
遺構表示工	製鉄炉, 住居跡表示	小舗石舗装		
	屋外模型展示			
	屋外模型上屋			
	登り窯復元 登り窯上屋			
管理施設工	案内板			
	説明板			
	施設銘板			
	車止	可動式		

第3図 施設配置図





植栽工凡例

記号	樹木名	規格	形状	支柱	備考
		H	C	W	
①	シラカシ	4.5	0.3	1.5	三脚鳥居
②	アラカシ	3.0	0.2	-	二脚鳥居 3本立以上
③	タブノキ	4.0	0.3	1.5	三脚鳥居
④	モチノキ	3.5	0.2	1.2	二脚鳥居(斜柱)
⑤	ウバメガシ	3.0	0.15	1.0	二脚鳥居(斜柱)
⑥	ケヤキ(大)	6.0	0.4	3.0	八ツ掛け丸太1
⑦	ケヤキ(小)	5.0	0.3	2.5	八ツ掛け丸太2
⑧	アギニレ	4.5	0.25	1.8	二脚鳥居
⑨	イロハモミジ	4.0	0.25	2.0	二脚鳥居
⑩	コブシ	4.0	0.25	1.5	二脚鳥居
⑪	サトザクラ	4.0	0.2	1.5	二脚鳥居(斜柱)
⑫	ソメイヨシノ	4.0	0.2	1.5	二脚鳥居(斜柱)
⑬	ヤマザクラ	4.0	0.2	1.5	二脚鳥居(斜柱)
⑭	コナラ	3.5	0.2	-	二脚鳥居 3本立
⑮	クヌギ	4.0	0.2	1.5	二脚鳥居(斜柱)
⑯	ヤマボウシ	3.5	0.2	-	二脚鳥居(斜柱)
⑰	ヤブツバキ	2.5	-	0.8	添柱型
⑱	キンモクセイ	2.0	-	0.7	添柱型
⑲	ネズミモチ	2.0	-	0.7	添柱型
㉑	ムクゲ	2.0	-	0.6	添柱型

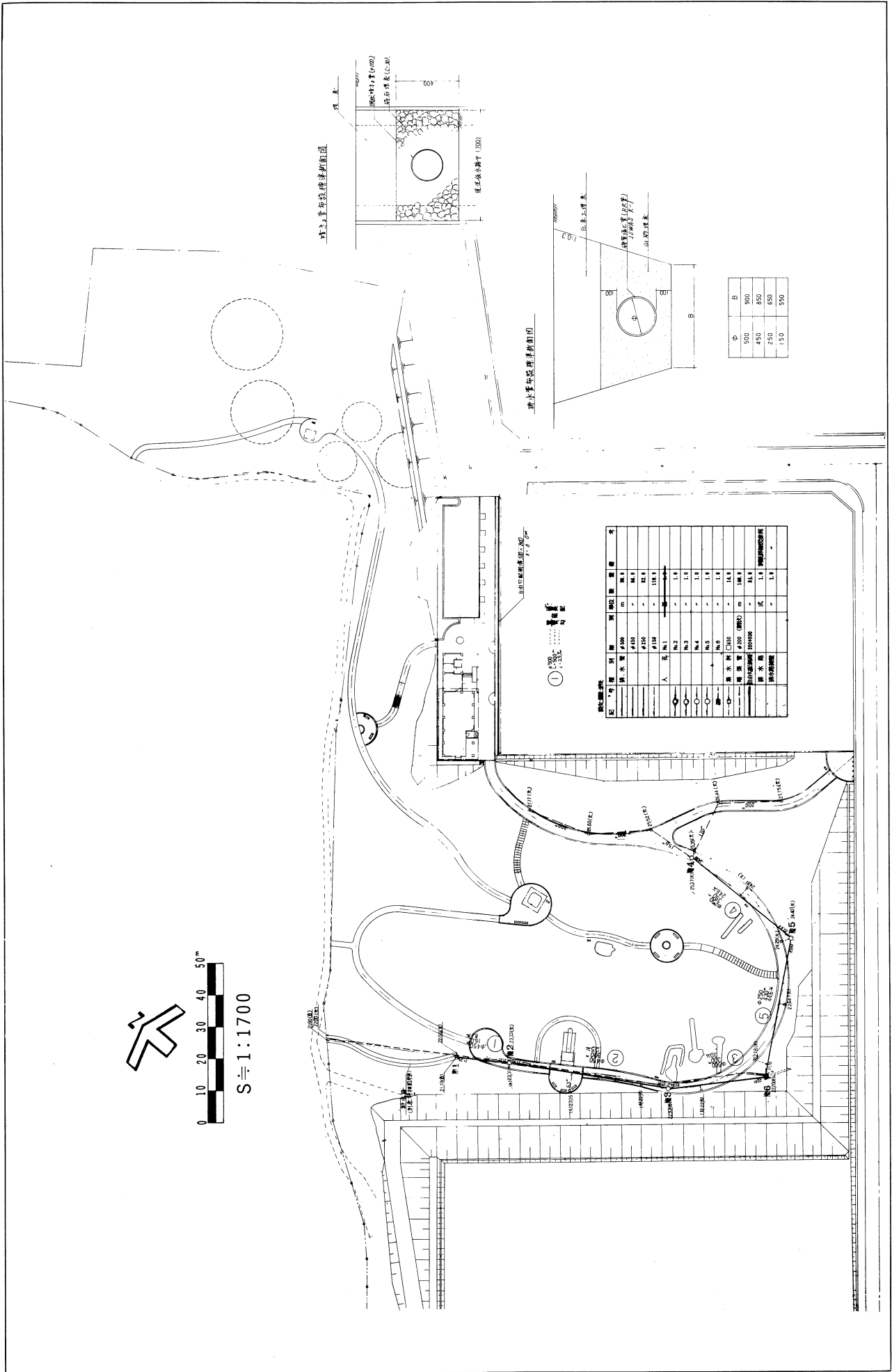
植栽工凡例

記号	樹木名	規格	形状	植栽密度	備考	
		H	C	W		
①	ジンチヨウグ	0.6	-	0.5	5株/㎡	
②	イヌツグ	0.5	-	0.25	16株/㎡	
③	キリシマツツジ	0.5	-	0.4	8株/㎡	
④	ヒラドツツジ	0.5	-	0.5	5株/㎡	
⑤	サツキツツジ	0.3	-	0.4	8株/㎡	
⑥	カンツバキ	0.3	-	0.3	14株/㎡	
⑦	レンギョウ	1.0	-	0.5	5株/㎡	
⑧	コデマリ	0.8	-	0.5	5株/㎡	
⑨	シモツゲ	0.8	-	0.5	5株/㎡	
⑩	ドウダンツツジ	0.8	-	0.4	8株/㎡	
⑪	ユキヤナギ	0.8	-	0.4	8株/㎡	3本立以上
⑫	ハギ	5芽立ち	-	-	5株/㎡	
⑬	法面緑化工-A	郷土種外来種混入	-	-	-	植生ネット張り
⑭	法面緑化工-B	3種混合	-	-	-	種子吹付

第4図 植栽工図

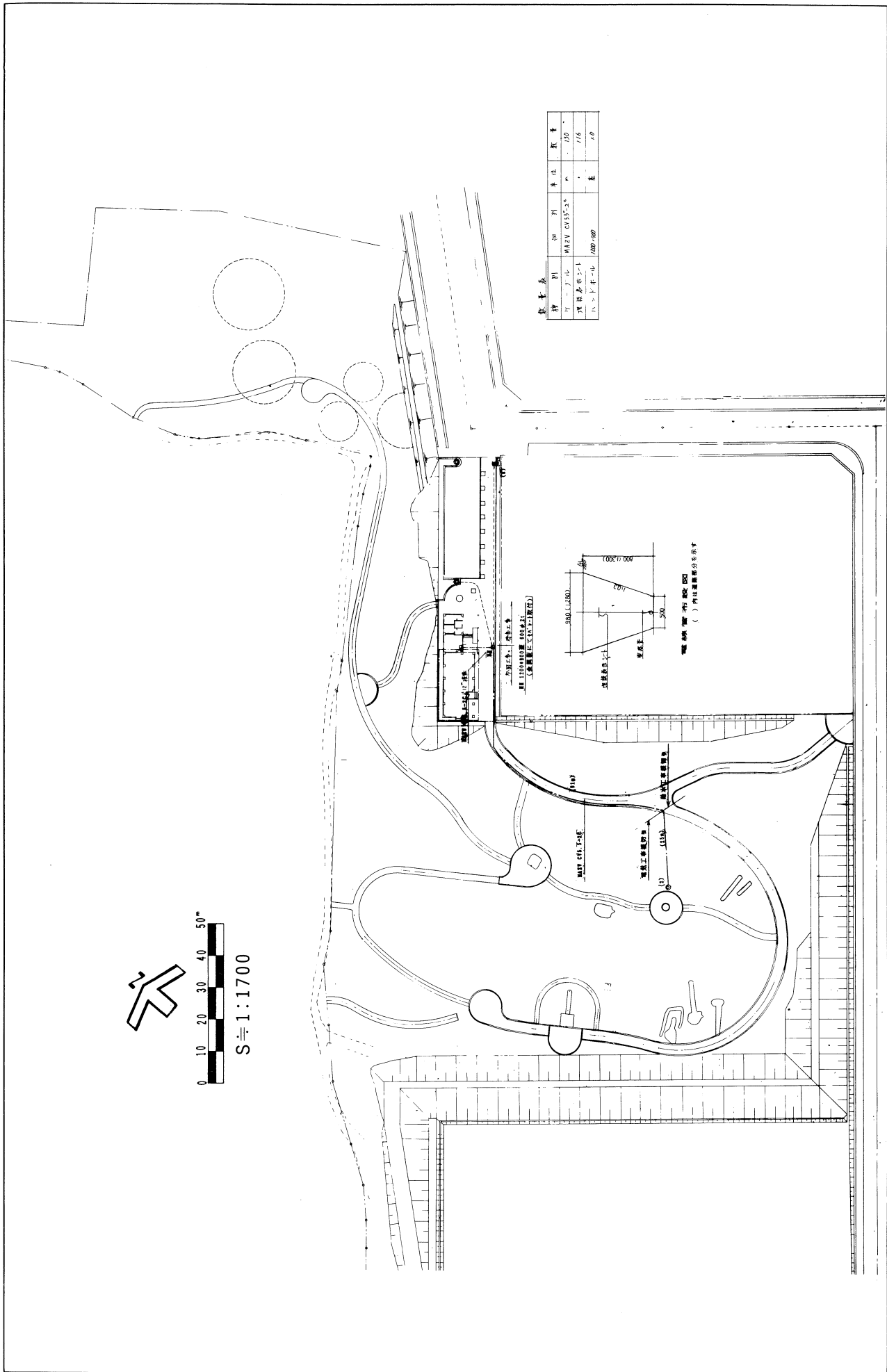






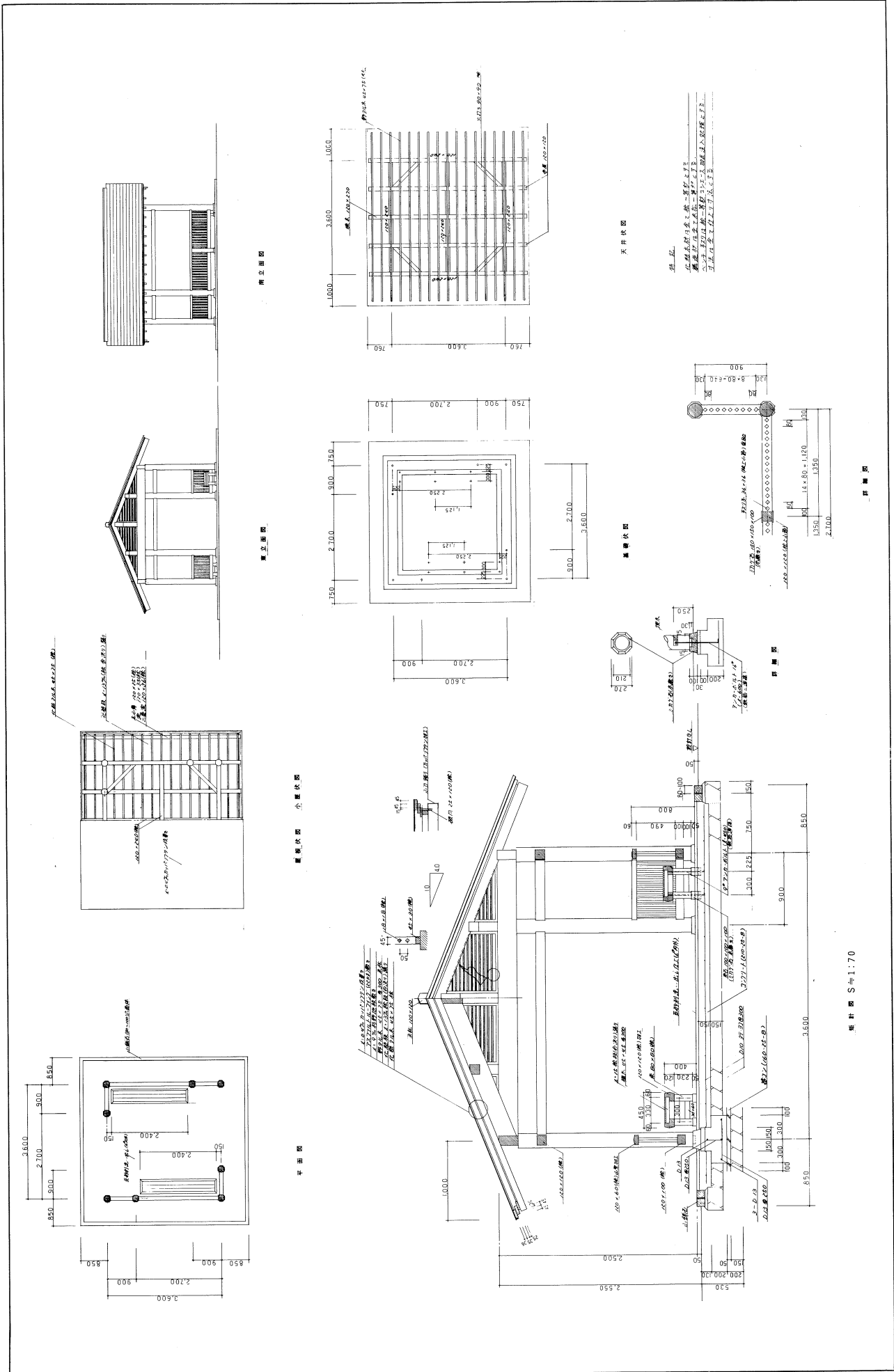
第 5 図 排水施設図



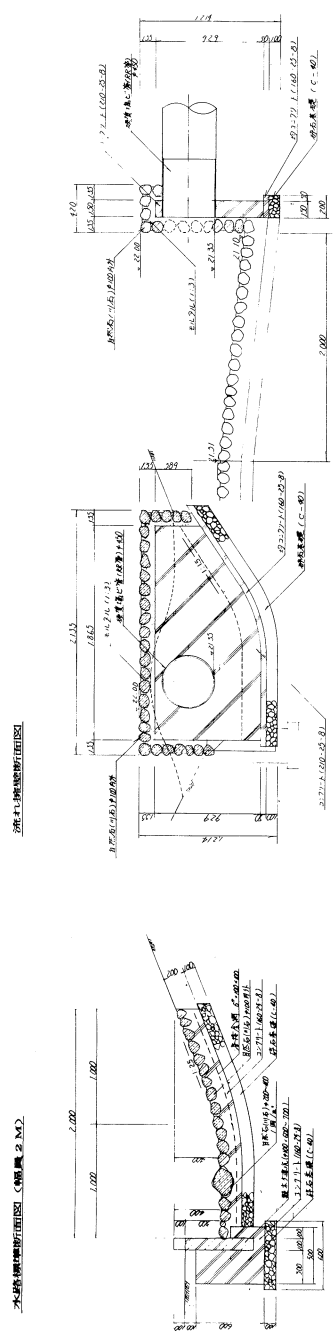
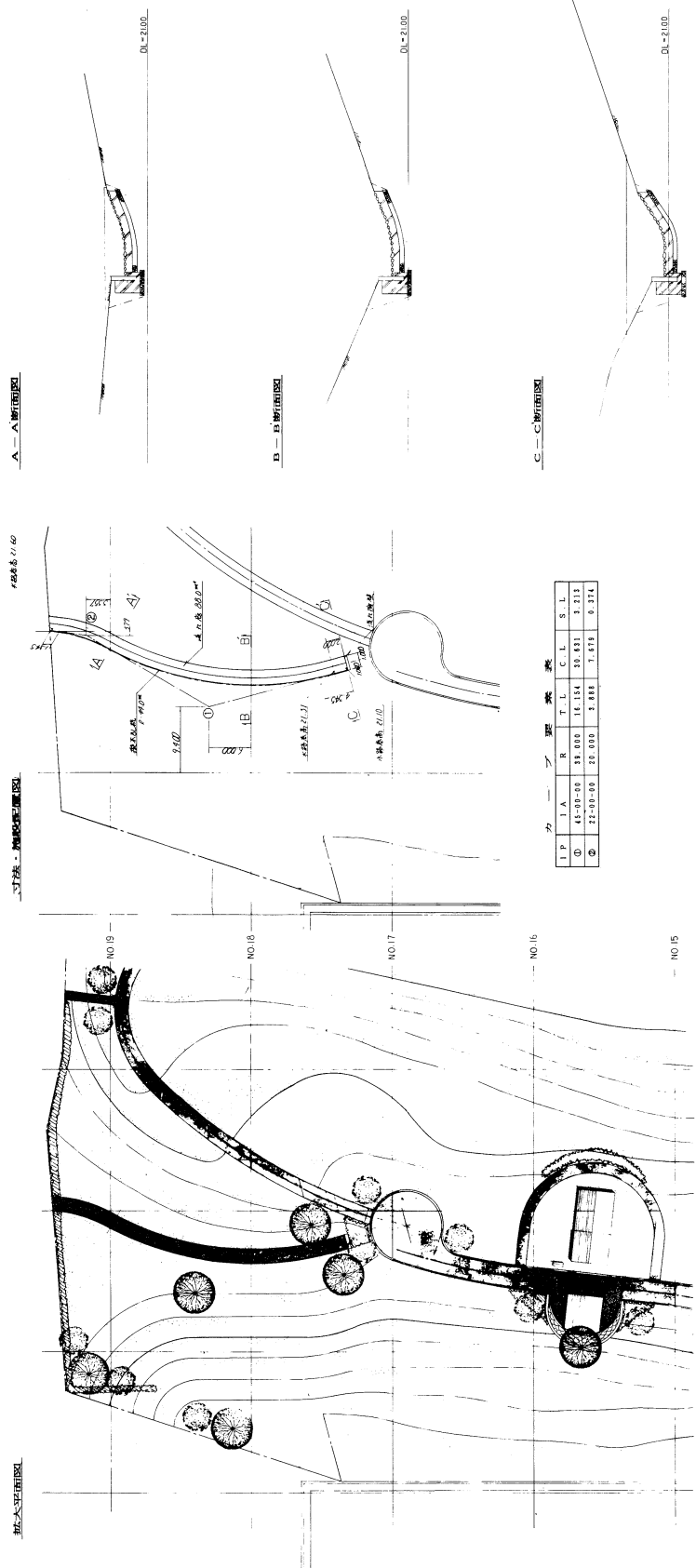


第7図 電気設備図

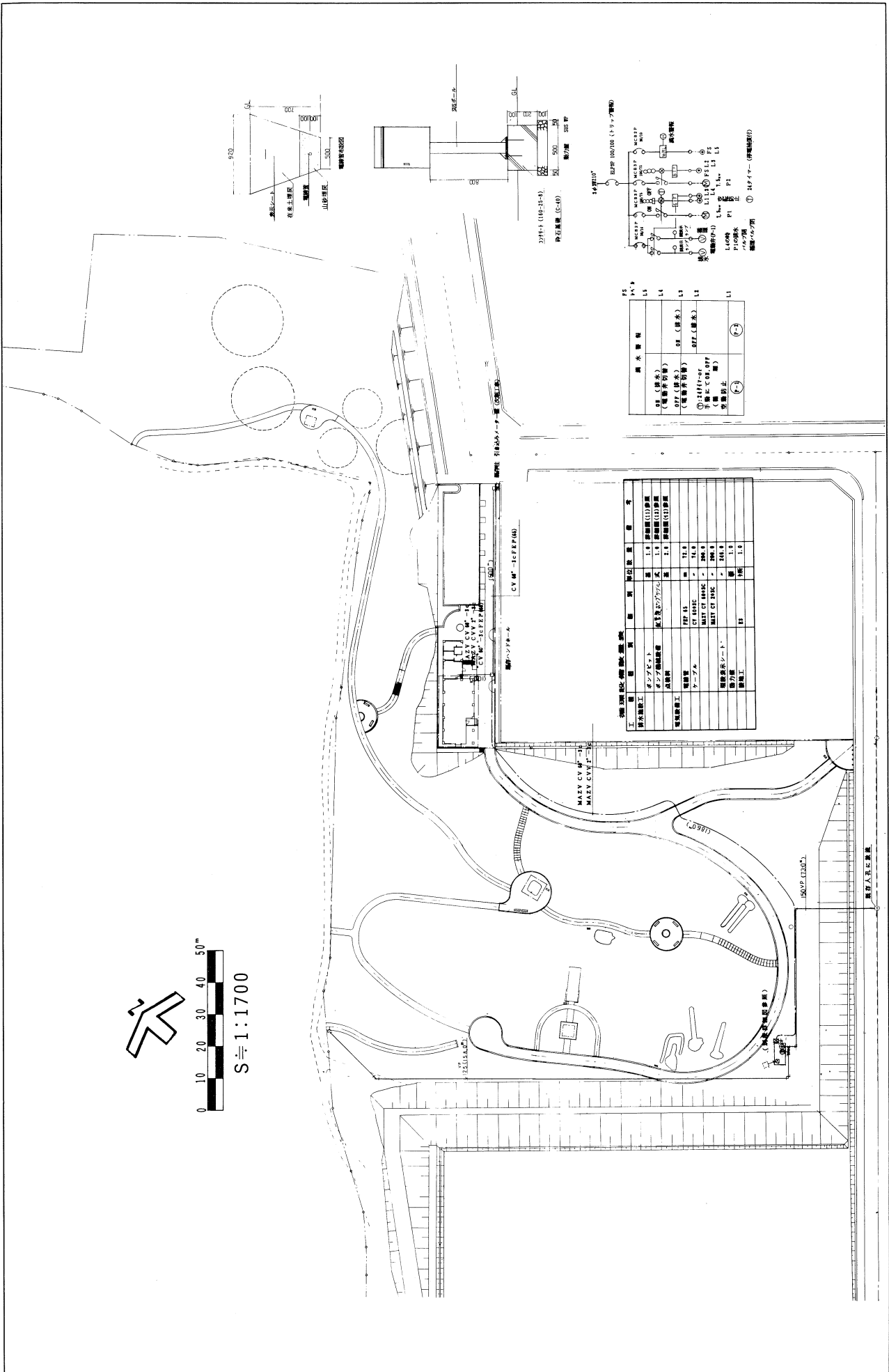




第 9 図 四阿設備図



第10图 水路工图

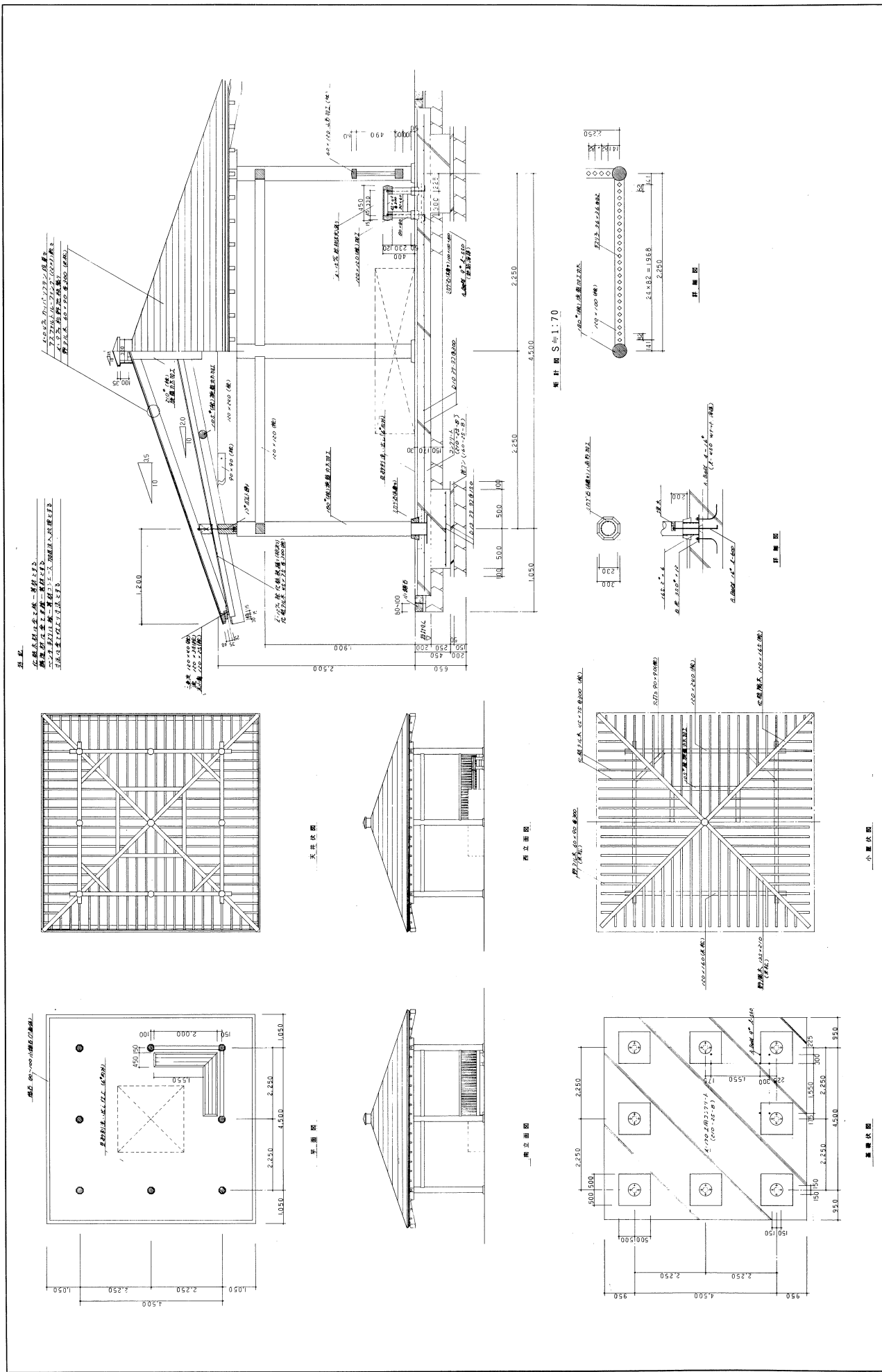


記号	説明
PS	ポンプ
PA'9	ポンプ
L3	ポンプ
L4	ポンプ
L3	ポンプ
L4	ポンプ
L1	ポンプ

工種	設備名	数量	単位	設置位置	備考
配管工	ポンプ	1.0	台	循環ポンプルーム	(1)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(2)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(3)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(4)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(5)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(6)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(7)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(8)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(9)設置
電気工	ポンプ制御盤	1.0	台	循環ポンプルーム	(10)設置

第11図 循環設備工図

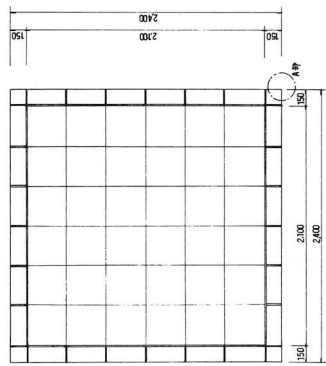




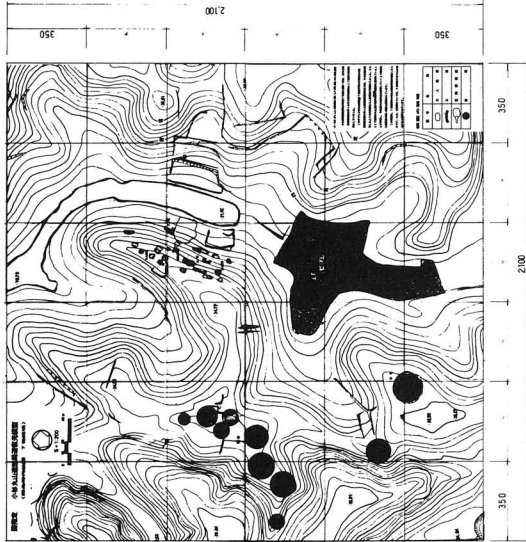
说明  
 1. 本图系在模型上绘制，一切尺寸均按模型比例。  
 2. 图中所示之材料规格，均按国家标准。  
 3. 图中所示之材料规格，均按国家标准。  
 4. 图中所示之材料规格，均按国家标准。

第12图 野外模型上屋工图

屋外展示模型

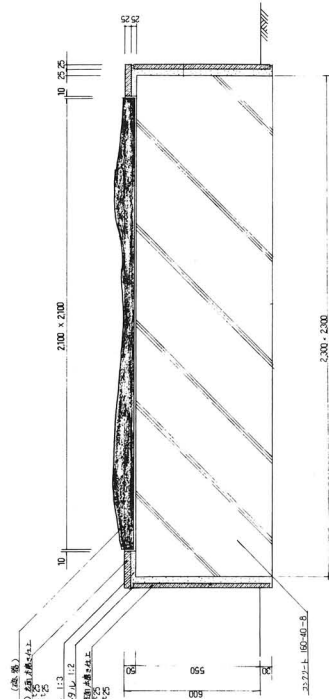


平面圖 S=1:70

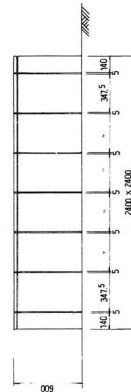


立体模型基本平面圖 S=1:35

- 立体模型(模型)
- 龙胆粉(生) 100g x 100g
- 玉蜀黍粉 100g x 100g
- 龍胆粉(生) 100g x 100g
- 玉蜀黍粉 100g x 100g
- 龍胆粉(生) 100g x 100g
- 玉蜀黍粉 100g x 100g



立面詳解圖

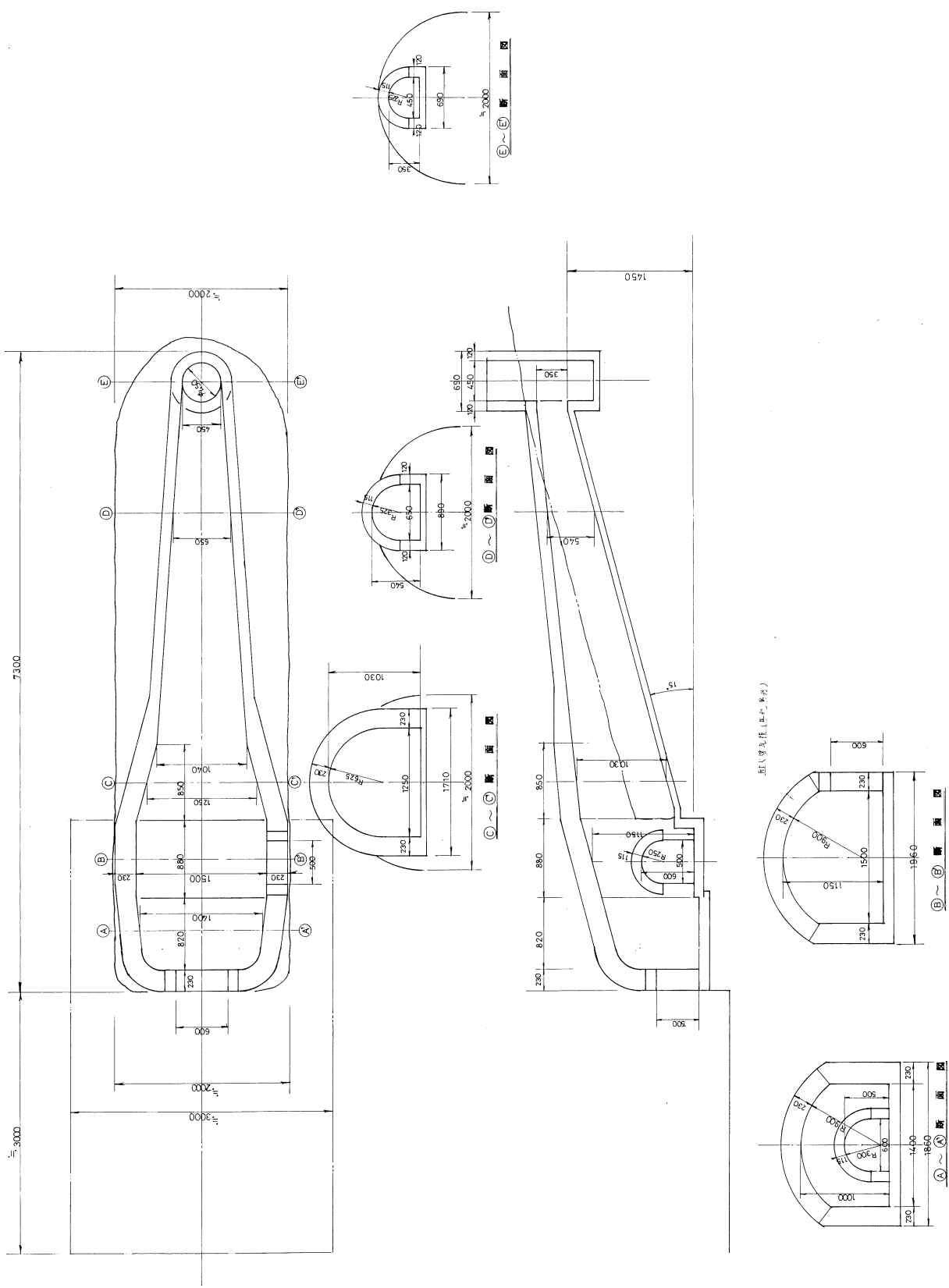


立面圖

A 顯示入口詳細圖

第13圖 屋外模型展示工圖





組立単位図(単位:mm)

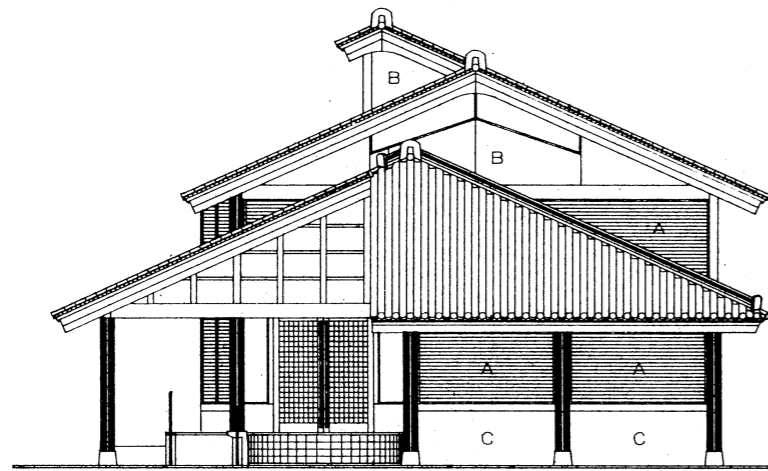
第15図 登録復元工図



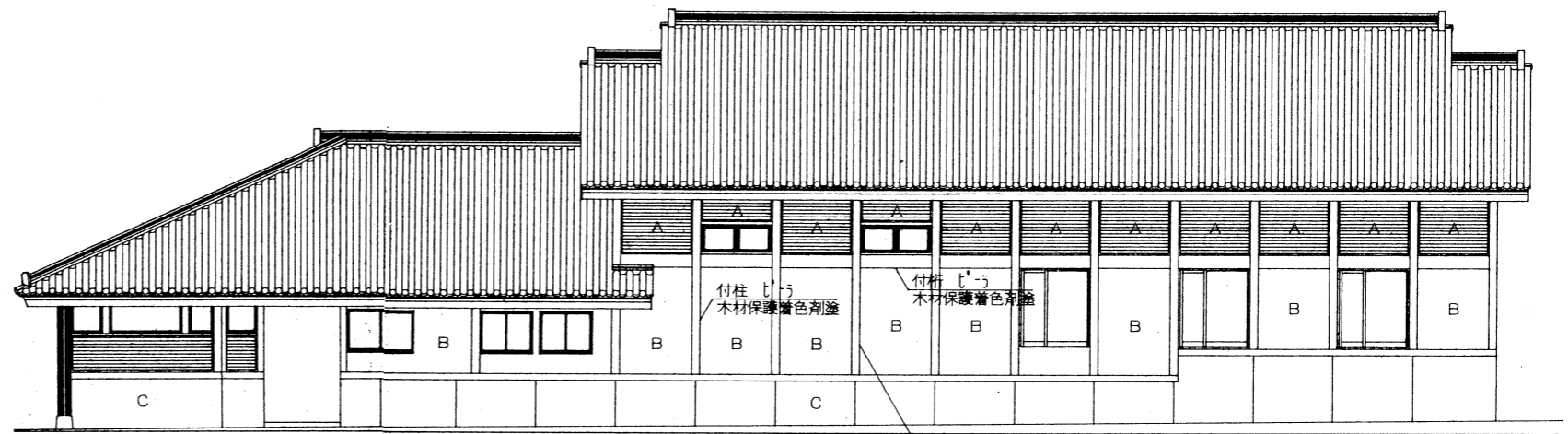




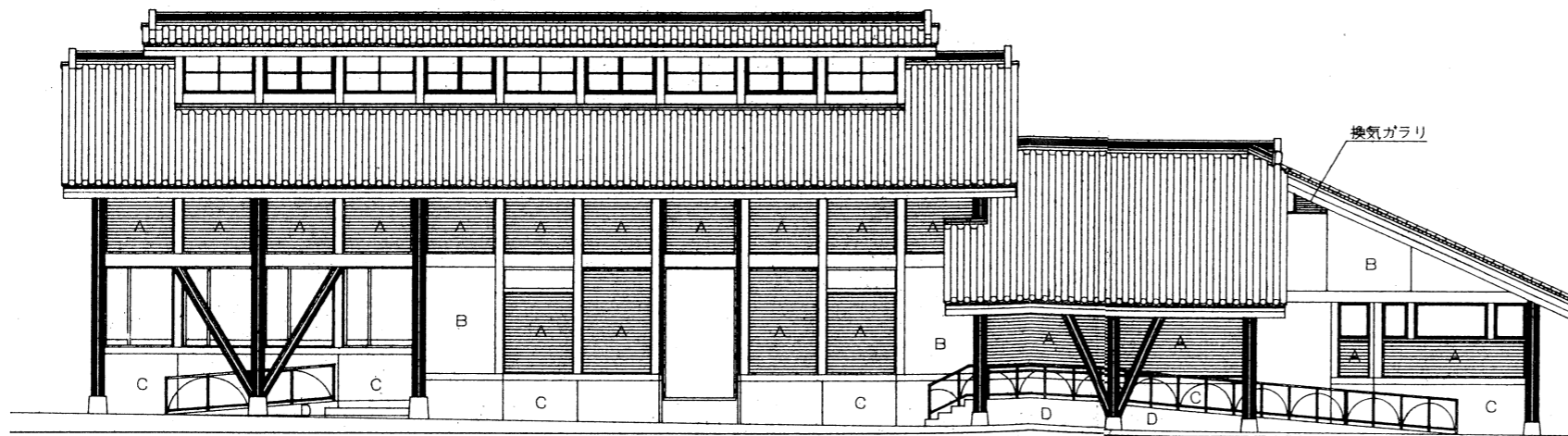
凡 例	
記 号	仕 上
A	ヒノキ材横積 木材保護着色剤塗
B	石綿付'40g' (7) 12 (好張) 7割刷り吹付
C	コンクリート打放
D	200角外装用床陶板 (1'5)



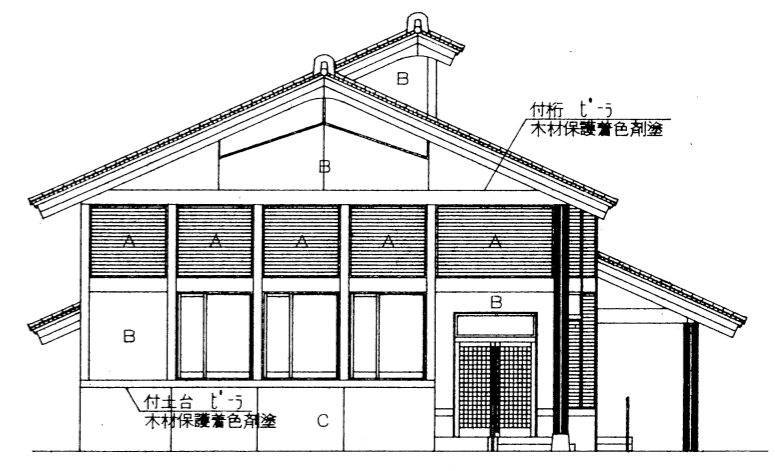
東側立面図



北側立面図



南側立面図

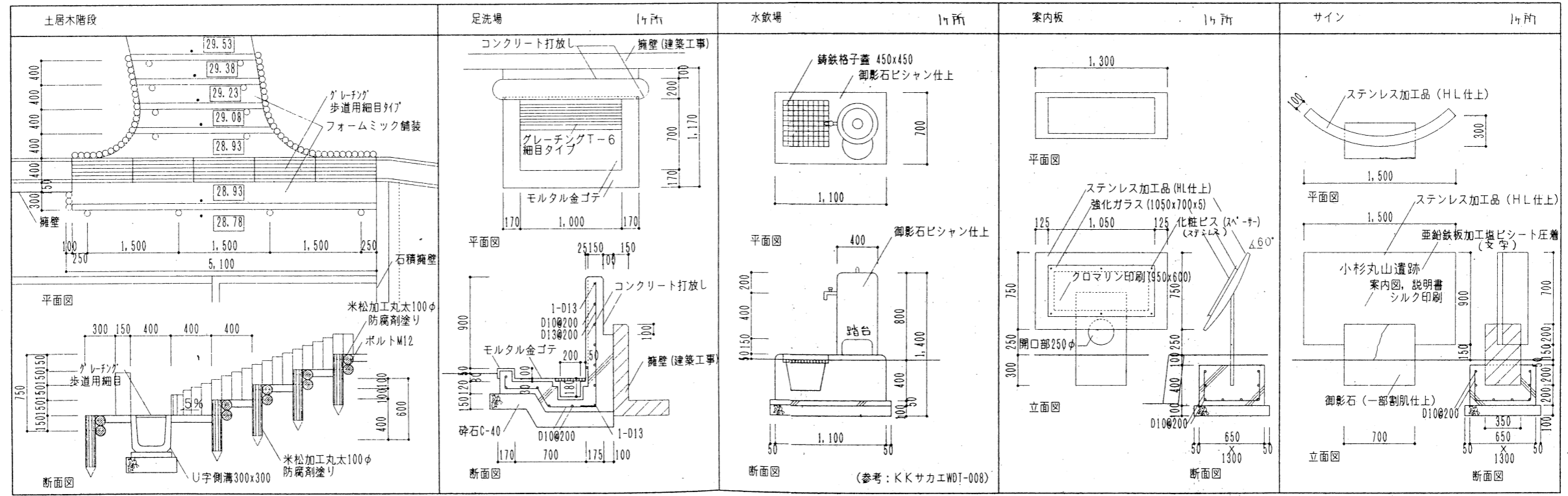
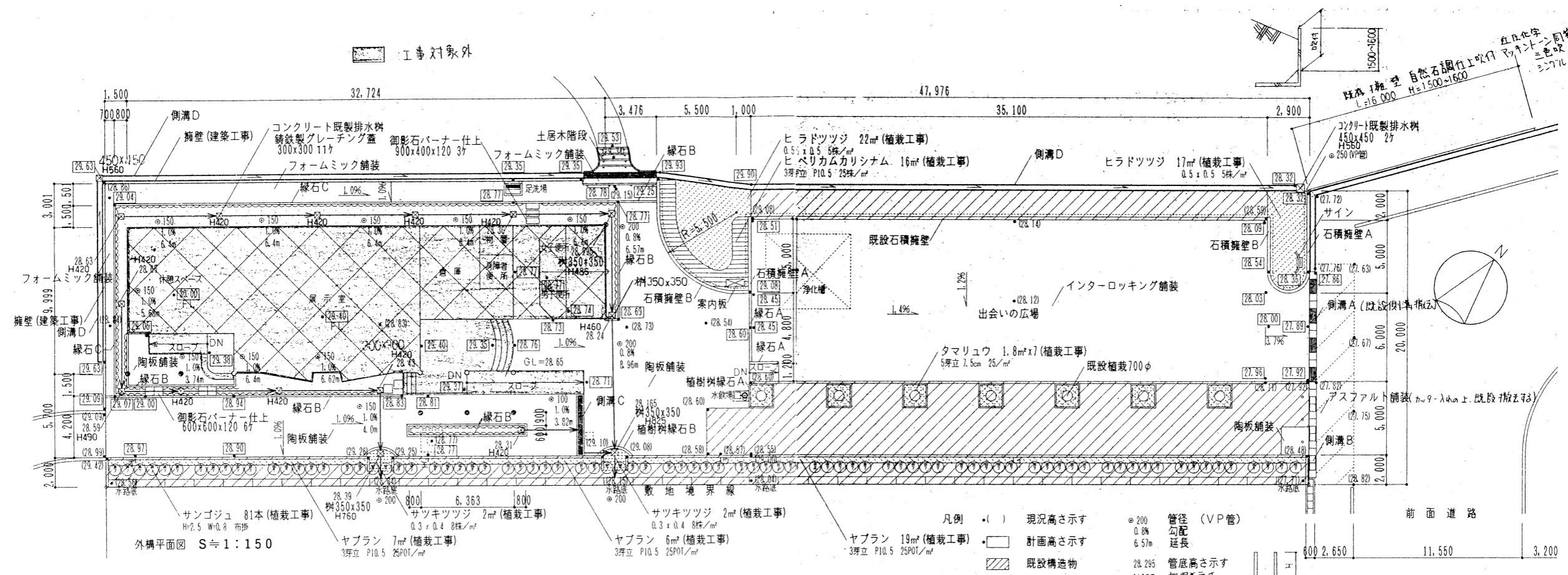


西側立面図

第18図 ガイダンス施設立面図





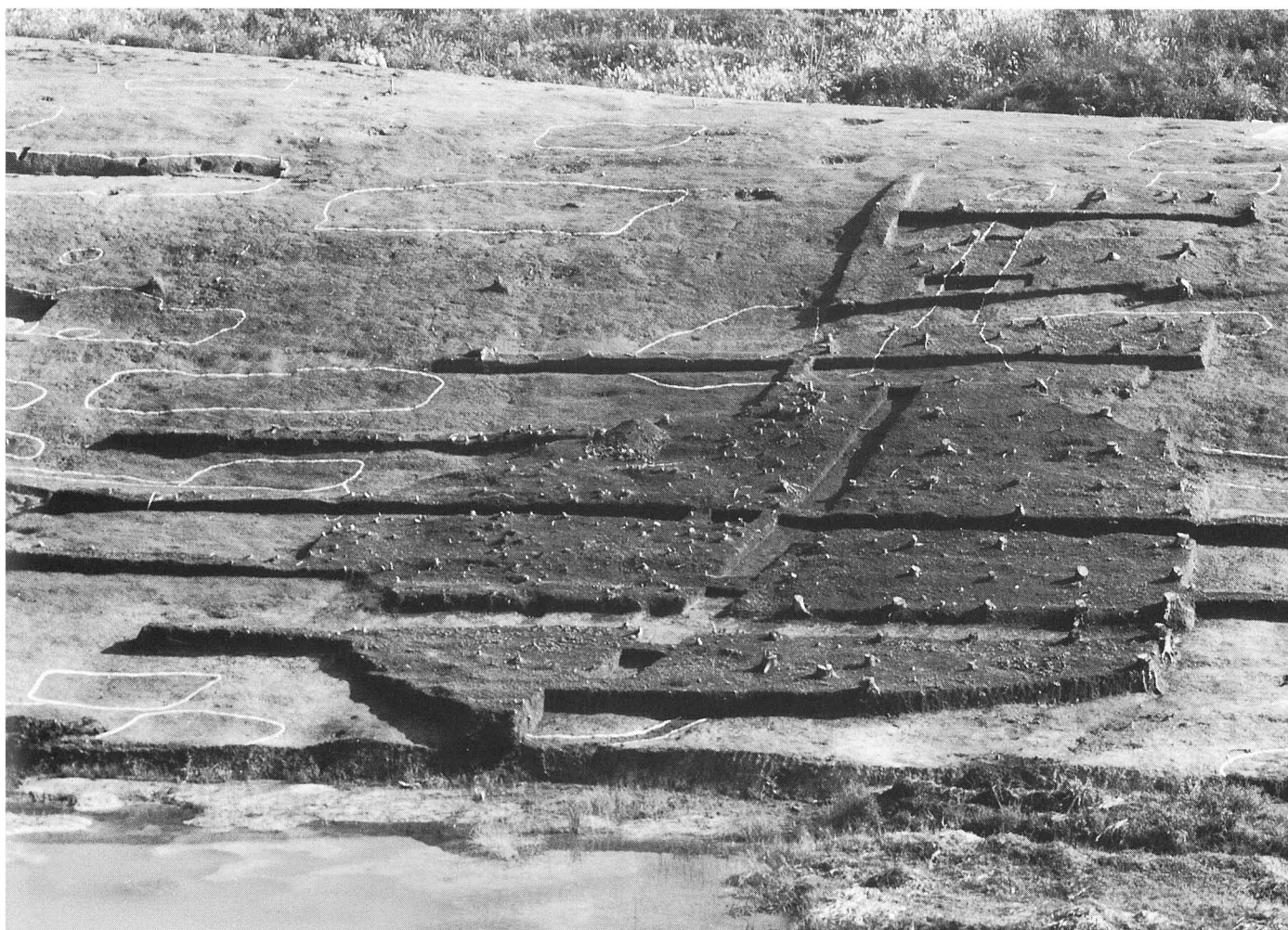


第19図 ガイダンス施設外構図





小杉丸山遺跡遠景



登窯(瓦陶兼業窯)検出状況



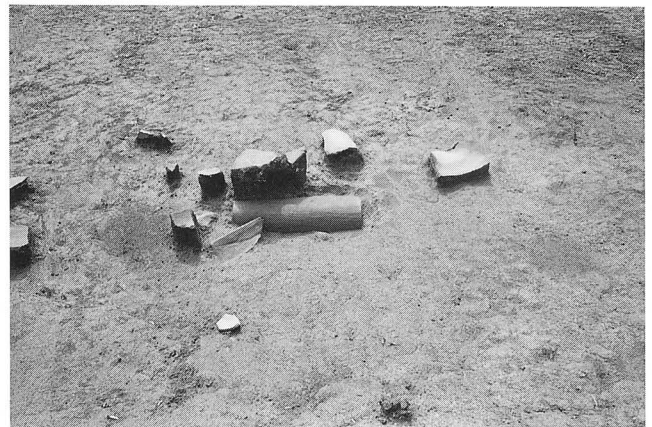
発掘風景



住居跡



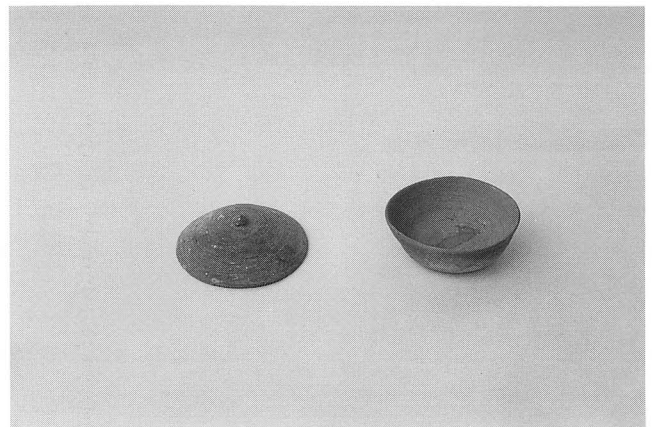
古墳発掘状況



瓦出土状況



軒丸瓦



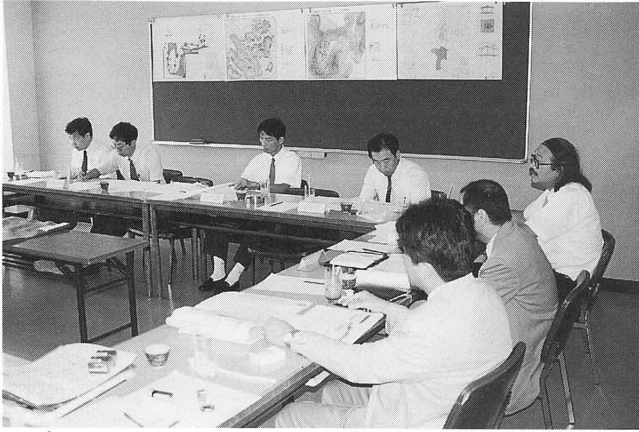
須恵器



平瓦



丸瓦



整備検討委員会



委員会現地指導



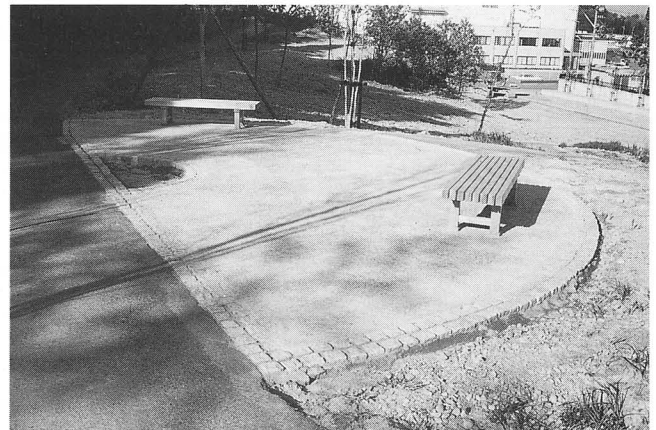
盛土工事



排水管理設工事



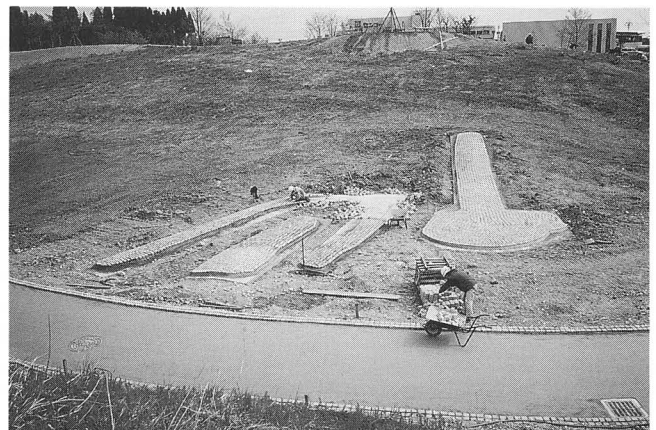
園路



園路広場



遺構表示



遺構表示



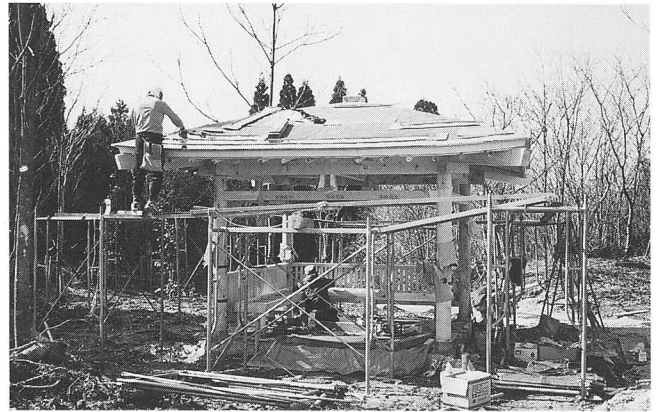
園路階段工事



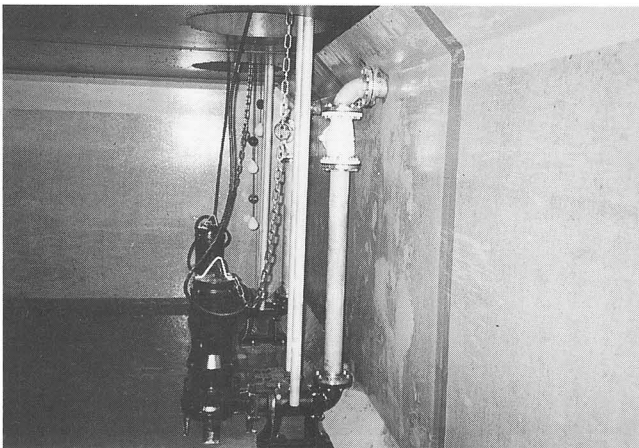
園路階段



四阿



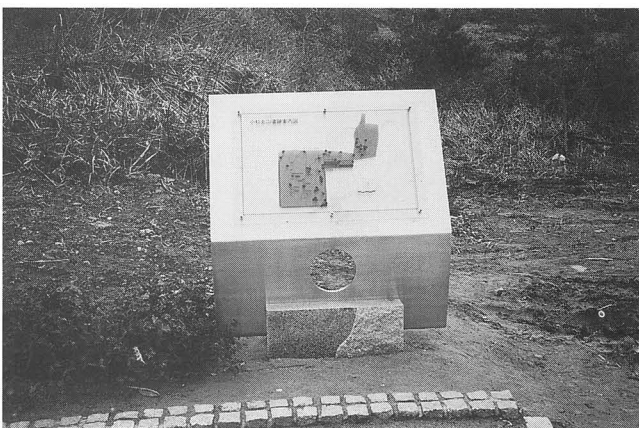
四阿工事



水中ポンプ



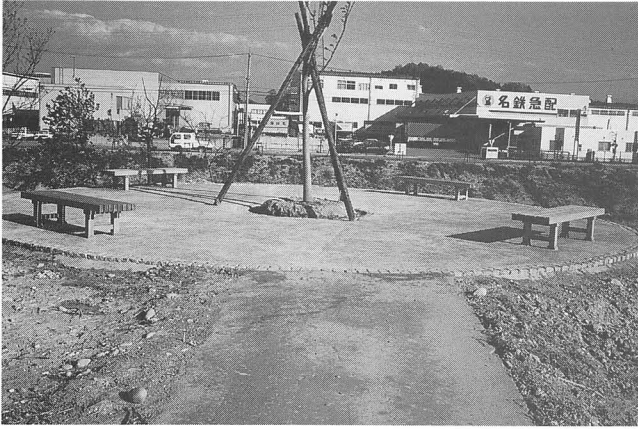
ポンプピット工事



解説板



銘板



展望広場



小川復元



遺構全体模型覆屋



遺構全体模型



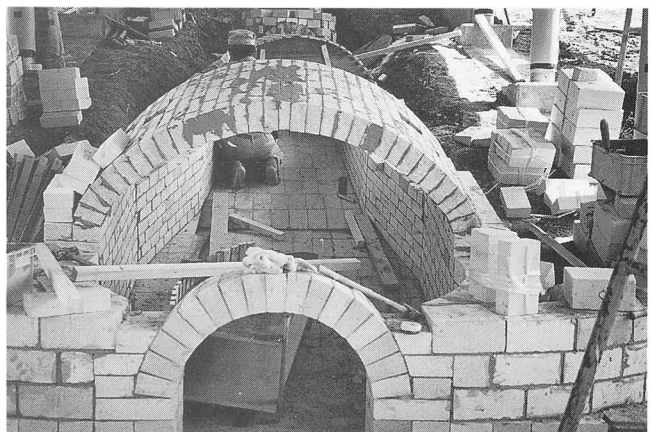
登窯遠景



登窯覆屋



登窯復元



登窯復元





ガイダンス施設



近景



南面



正面



西面



解説板



北面



解説板

小杉丸山遺跡の環境整備  
—史跡等活用特別事業の報告書—

編集：富山県教育委員会文化課  
発行：平成8年3月  
印刷：チューエツ